

最年少就任 `革新` に意欲

焦点

インタビュー

歴代で最も若い41歳で沖縄観光コンベンションビューロー(OCVB)の会長に安里繁信氏(シンバホールディングス代表取締役会長CEO)が就任した。今後の抱負や具体的なかじ取りを聞いた。

―畑違いの分野からOCVB会長に就任した。

「沖縄全体が観光業だと言え、マーケットは変わらないと考えている。今までは業界単位で観光を語っていた。沖縄全体が観光産業という主体性を持って商品づくりなどに取り組みたい。沖縄観光の歴史を総括し、主体性を持ってイノベーション(革新)とマー

沖縄観光コンベンションビューロー会長 安里繁信氏



主体的に旅行商品提案

ケティンクを行う」

―主体性とは。

「県任せでもマーケット任せでもなく、どういう環境になっても自ら井戸を掘っていく姿勢のことだ。現状は航空会社、旅行エージェンツに助けられている。この体制と併

せ、独自のスタンスで旅行商會員の報告会までに選任する。2008年に施行された公益法人制度改革で13年までに一般財団法人か公益財団法人への移行を迫られる。那覇で鉛筆をなめて決めるのではなく、離島も回って課題を上げていく。この1年で生き残

せても自ら井戸を掘っていく

―組織体制については。

「私の要望で理事の中から5人以内の副会長職を置ける体制に変更した。8日の賛助

の意義を理屈ではなく気持ちで浸透させていく」

―沖縄観光の優位性は。

「地の利、文化力の優位性がある。今まで全国500近くの市町村を回ってきたが、人口増も含めてこの地域が果たす役割は大きい。沖縄が近隣アジアの可能性を引き出して、国家のけん引役になるようにする。来年は本土復帰40周年だ。複数の大手メディアが取り上げることが予想される。その場で何らかのメッセージを流したい」

り懸けて方向付けを決定する」

―複数の副会長を置く理由は。

「公共の利益を考えていくのは民間の力を起用することが大切だ。副会長は無報酬で就く。それぞれに宿題を課して、各地を回ってもらう。地方の各観光協会と関わり合いを深めていただき、観光産業

―今後の抱負は。

「地方・国も負債が増大する中、沖縄観光が国の経済を盛り上げる産業だと認識させることが必要だ。『顔の見える法人、顔の見える活動』を目指す」

(聞き手・梅田正寛)